



FY 2021/JGP2025

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

2021年11月19日

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 宮内 直孝

さあ
次は何を
つくりたい？

THE FIRST ENGINEER

『THE FIRST ENGINEER』に込めた思い

ペンギンの群れが餌を求める時、

天敵がいるかもしれない大海に真っ先に飛び込む“最初の一羽”がいます。

ビジネスの世界では、未知の領域に挑む挑戦者のことをその勇敢なペンギンになぞらえ、

「ファーストペンギン」

と呼びます。

当社はこのペンギンのようにファーストエンジニアとして、

困難な状況の中で社会の新しい価値づくりに挑み、

未来を切り開くことを使命と考えています。

【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

INDEX

PART I 2022年3月期 第2四半期実績

- 07 受注高・売上高・利益の状況
- 08 営業利益増減要因
- 09 セグメント別
- 10 産業機械事業
- 11 素形材・エンジニアリング事業
- 12 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

PART II 2022年3月期 通期計画

- 14 受注高・売上高・利益の計画
- 15 営業利益増減要因
- 16 セグメント別
- 17 産業機械事業
- 18 素形材・エンジニアリング事業
- 19 受注残高の推移と予想

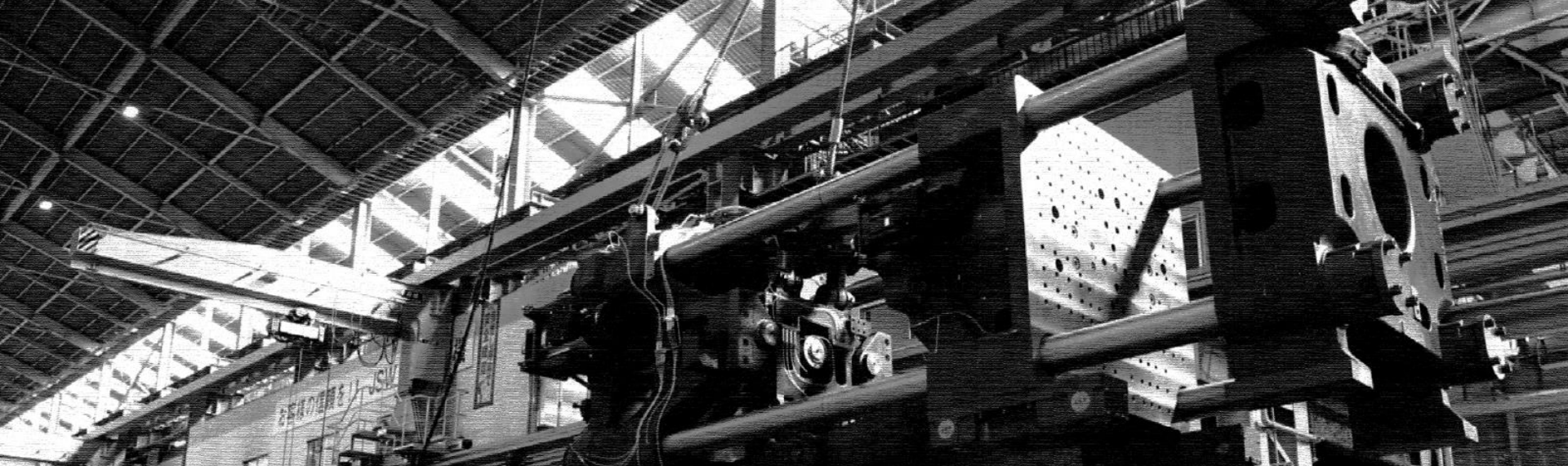
PART III 事業概況

- 21 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
- 22 素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
- 23 フィルム・シート製造装置
- 24 成形機

- 25 横浜製作所の事業再編
- 26 クラッド鋼板・鋼管事業の再構築
- 27 ESG経営の推進 ～価値創造プロセス～

参考資料 (28～32) :

事業セグメントの構成と主要製品 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / 日本製鋼所企業行動基準 (2018年4月1日 改正)



2022年3月期 第2四半期実績

PART I

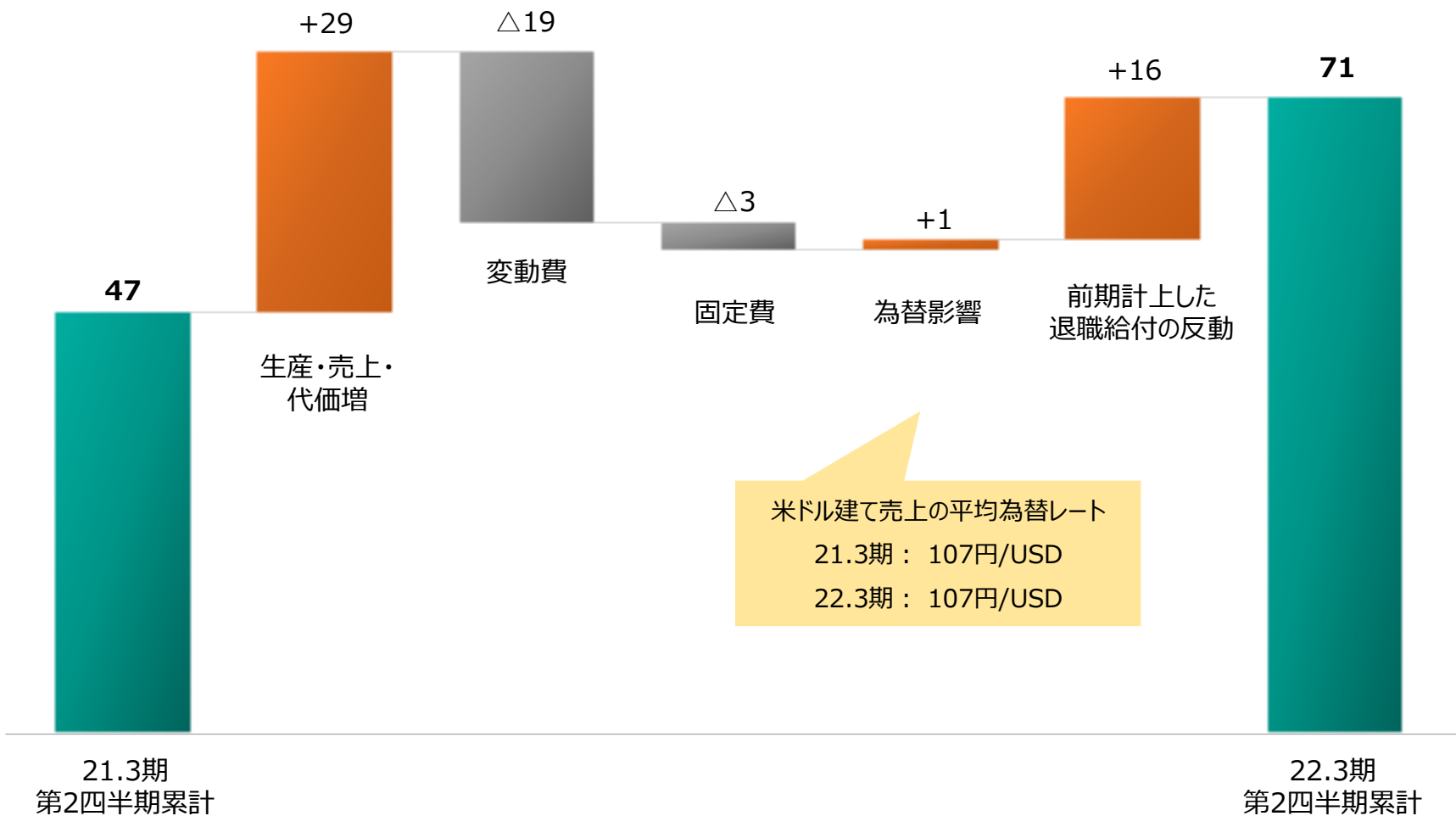


受注高・売上高・利益とも前年同期比増

(億円)

	21.3期 第2四半期 累計 (A)	22.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	22.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	785	1,482	697	2,710	54.7%
売上高	901	911	10	2,260	40.3%
営業利益 (率)	47 5.2%	71 7.8%	24 2.6%	160 7.1%	44.4% -
経常利益	50	78	28	160	48.8%
純利益	35	67	32	110	61.0%
1株当たり 純利益 (円)	48.69	91.27	42.58	149.55	61.0%
1株当たり 配当金 (円)	17.5	22.5	5.0	45.0	50.0%

生産・売上・代価増や前期に計上した退職給付の反動で 24億円の増益



両セグメントとも受注高は前年同期比増

産業機械事業

	21.3期 第2四半期 累計 (A)	22.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	(億円)	
				22.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	603	1,246	643	2,285	54.5%
売上高	731	748	17	1,805	41.4%
営業利益 (率)	82 11.2%	81 10.8%	△ 1 △ 0.4%	188 10.4%	43.1% -

素形材・エンジニアリング事業

	21.3期 第2四半期 累計 (D)	22.3期 第2四半期 累計 (E)	前年同期比 増減額 (E)-(D)	(億円)	
				22.3期 通期 修正予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
受注高	167	221	54	390	56.7%
売上高	159	150	△ 9	420	35.7%
営業利益 (率)	2 1.3%	10 6.7%	8 5.4%	12 2.9%	83.3% -

売上高は成形機が好調で前年同期比増。受注高は、樹脂製造・加工機械、成形機ともに好調で前年同期比で大幅増

売上高・営業利益

	21.3期 第2四半期 累計 (A)		22.3期 第2四半期 累計 (B)		前年同期比 増減額 (B)-(A)		22.3期 通期 修正予想 (C)		修正予想比 進捗率 (B)/(C)	
樹脂製造・加工機械	292	262	△ 30	660	39.7%					
成形機	235	302	67	710	42.5%					
その他	204	184	△ 20	435	42.3%					
合計	731	748	17	1,805	41.4%					
営業利益	82	81	△ 1	188	43.1%					

受注高

	21.3期 第2四半期 累計 (D)		22.3期 第2四半期 累計 (E)		前年同期比 増減額 (E)-(D)		22.3期 通期 修正予想 (F)		修正予想比 進捗率 (E)/(F)	
樹脂製造・加工機械	208	683	475	1,075	63.5%					
成形機	218	390	172	815	47.9%					
その他	177	173	△ 4	395	43.8%					
合計	603	1,246	643	2,285	54.5%					

受注高・利益は前年同期比増

売上高・営業利益

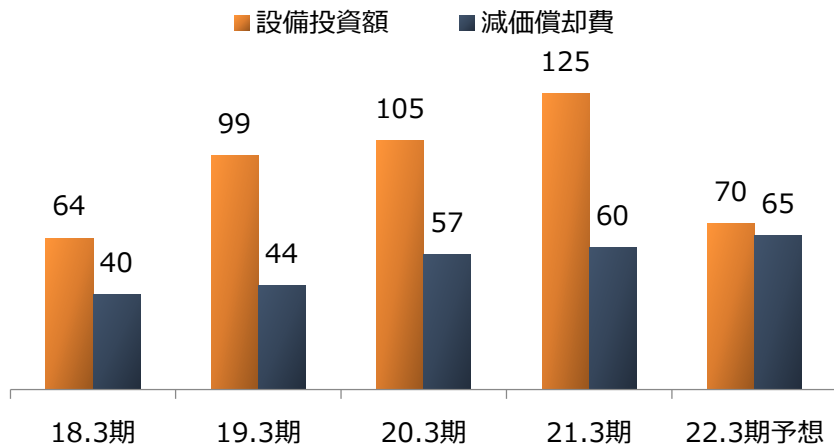
	21.3期 第2四半期 累計 (A)		22.3期 第2四半期 累計 (B)		前年同期比 増減額 (B)-(A)	22.3期 通期 修正予想 (C)		修正予想比 進捗率 (B)/(C)
						(億円)		
鑄鍛鋼品	95	101	6	255	39.6%			
クラッド鋼板・ 鋼管	27	10	△ 17	65	15.4%			
エンジニアリング 他	37	39	2	100	39.0%			
合計	159	150	△ 9	420	35.7%			
営業利益	2	10	8	12	83.3%			

受注高

	21.3期 第2四半期 累計 (D)		22.3期 第2四半期 累計 (E)		前年同期比 増減額 (E)-(D)	22.3期 通期 修正予想 (F)		修正予想比 進捗率 (E)/(F)
						(億円)		
	101	121	20	210	57.6%			
	9	58	49	85	68.2%			
	57	42	△ 15	95	44.2%			
	167	221	54	390	56.7%			

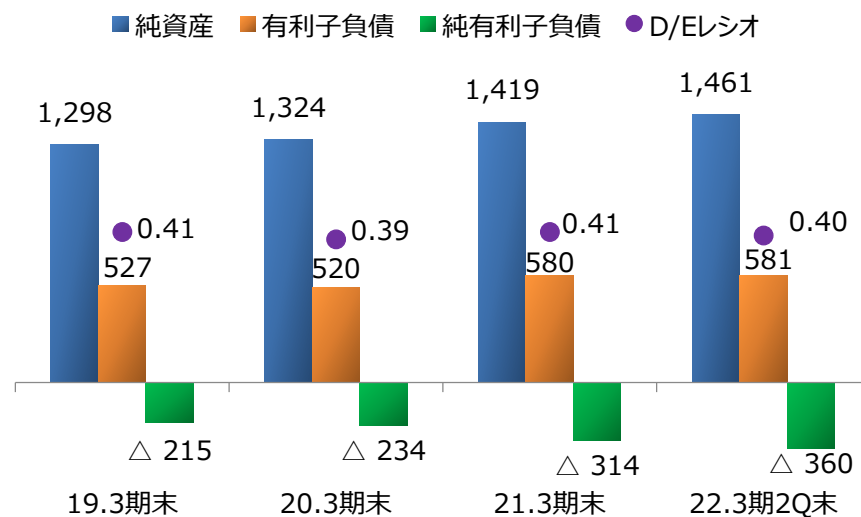
2022年3月期 第2四半期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

設備投資・減価償却費の状況

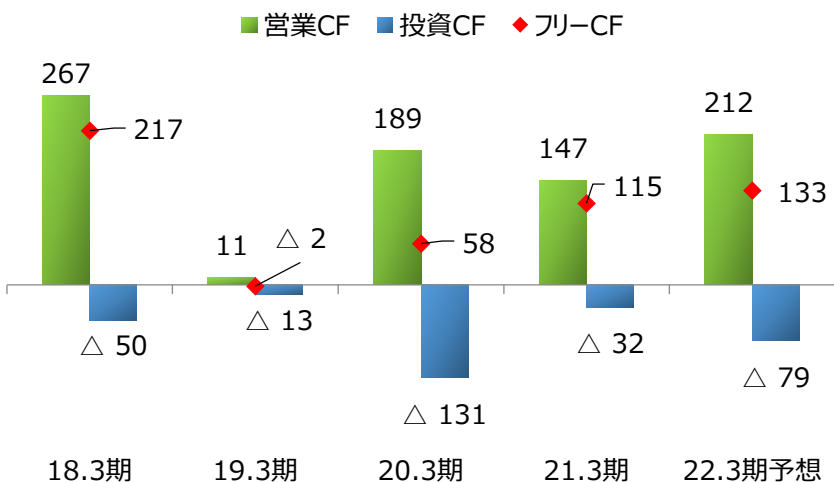


財務体質の状況

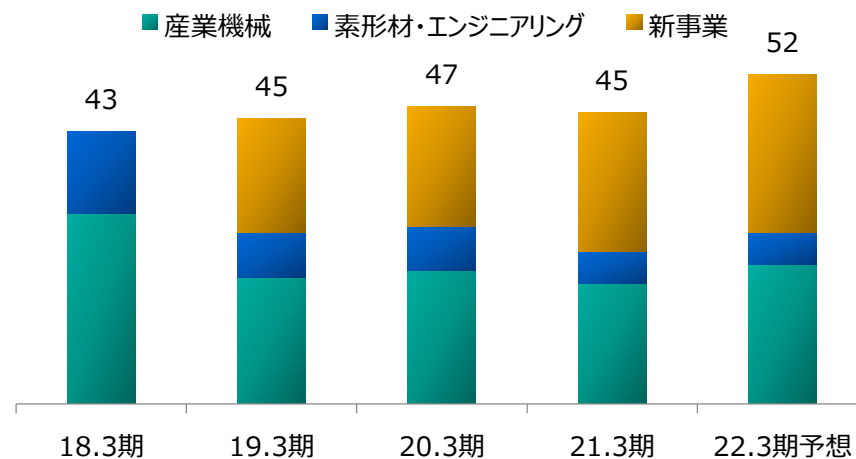
(単位：億円)



キャッシュ・フローの状況



研究開発費の状況





2022年3月期 通期計画

PART II



2022年3月期：受注高・売上高・利益の計画

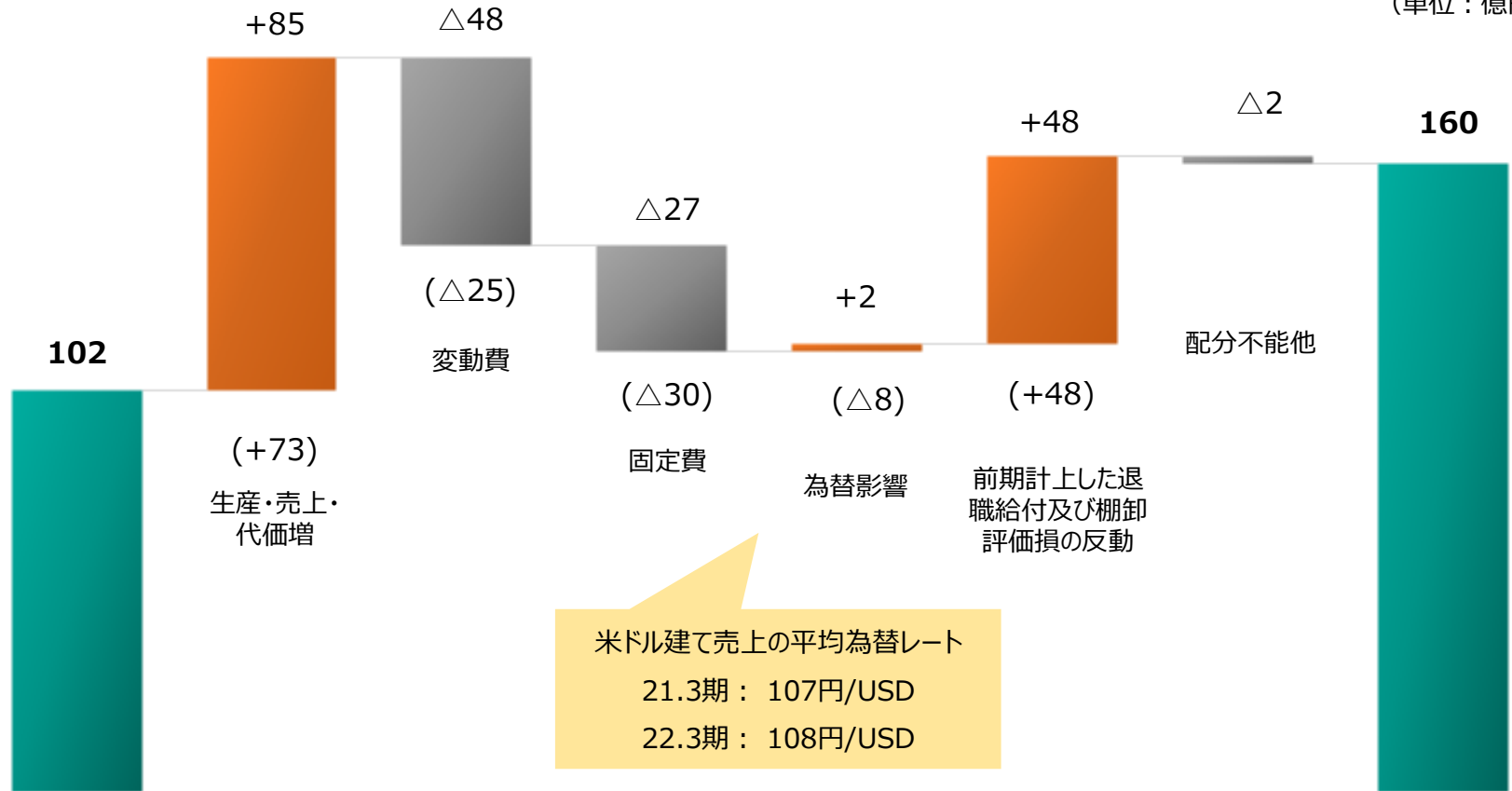
受注高・売上高・利益とも前年比増、 前回予想に対しては、受注高は上方修正

(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期 通期当初予想 (B)	22.3期			前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
			上期実績	下期予想	通期修正予想 (C)		
受注高	1,810	2,540	1,482	1,228	2,710	900	170
売上高	1,980	2,260	911	1,349	2,260	280	—
営業利益 (率)	102 5.2%	160 7.1%	71 7.8%	89 6.6%	160 7.1%	58 1.9%	—
経常利益	107	160	78	82	160	53	—
純利益	68	110	67	43	110	42	—
1株当たり 純利益 (円)	93.76	149.60	91.27	58.28	149.55	55.79	△ 0.05
1株当たり 配当金 (円)	35.0	45.0	22.5	22.5	45.0	10.0	—

生産・売上の増加等により58億円増益

(単位：億円)



米ドル建て売上の平均為替レート
 21.3期：107円/USD
 22.3期：108円/USD

21.3期実績

22.3期予想

※ () 内は前回予想値

両セグメントとも受注高・売上高は前年比増

産業機械事業

(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期 当初予想 (B)	22.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	1,452	2,070	2,285	833	215
売上高	1,563	1,760	1,805	242	45
営業利益 (率)	139 8.9%	178 10.1%	188 10.4%	49 1.5%	10 0.3%

素形材・エンジニアリング事業

	21.3期 実績 (D)	22.3期 当初予想 (E)	22.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
受注高	327	430	390	63	△ 40
売上高	385	460	420	35	△ 40
営業利益 (率)	18 4.7%	19 4.1%	12 2.9%	△ 6 △ 1.8%	△ 7 △ 1.2%

樹脂製造・加工機械、成形機とも良好な受注環境が継続

売上高・営業利益

(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期 当初予想 (B)	22.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
樹脂製造・ 加工機械	588	640	660	72	20
成形機	545	660	710	165	50
その他	430	460	435	5	△ 25
合計	1,563	1,760	1,805	242	45
営業利益	139	178	188	49	10

受注高

(単位：億円)

	21.3期 実績 (D)	22.3期 当初予想 (E)	22.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
	474	970	1,075	601	105
	574	700	815	241	115
	404	400	395	△ 9	△ 5
	1,452	2,070	2,285	833	215

受注高・売上高は前期比増

前回受注予想に対しては、クラッド鋼管の受注減により下方修正

売上高・営業利益

(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期 当初予想 (B)	22.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
鍛造鋼品	199	240	255	56	15
クラッド鋼板・鋼管	105	116	65	△ 40	△ 51
エンジニアリング他	81	104	100	19	△ 4
合計	385	460	420	35	△ 40
営業利益	18	19	12	△ 6	△ 7

受注高

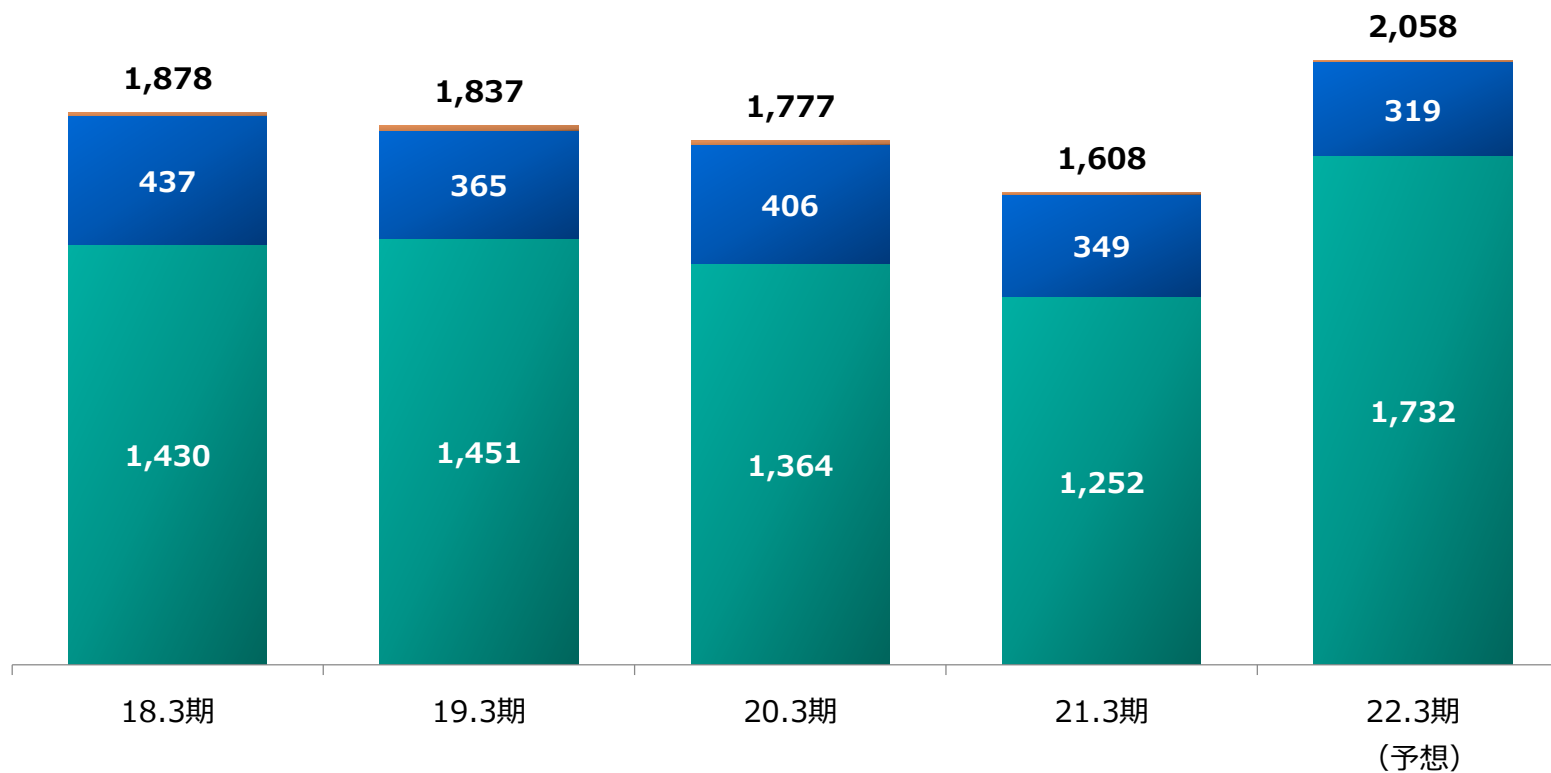
(単位：億円)

	21.3期 実績 (D)	22.3期 当初予想 (E)	22.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
鍛造鋼品	219	200	210	△ 9	10
クラッド鋼板・鋼管	17	150	85	68	△ 65
エンジニアリング他	91	80	95	4	15
合計	327	430	390	63	△ 40

セグメント別 受注残高の推移

(単位：億円)

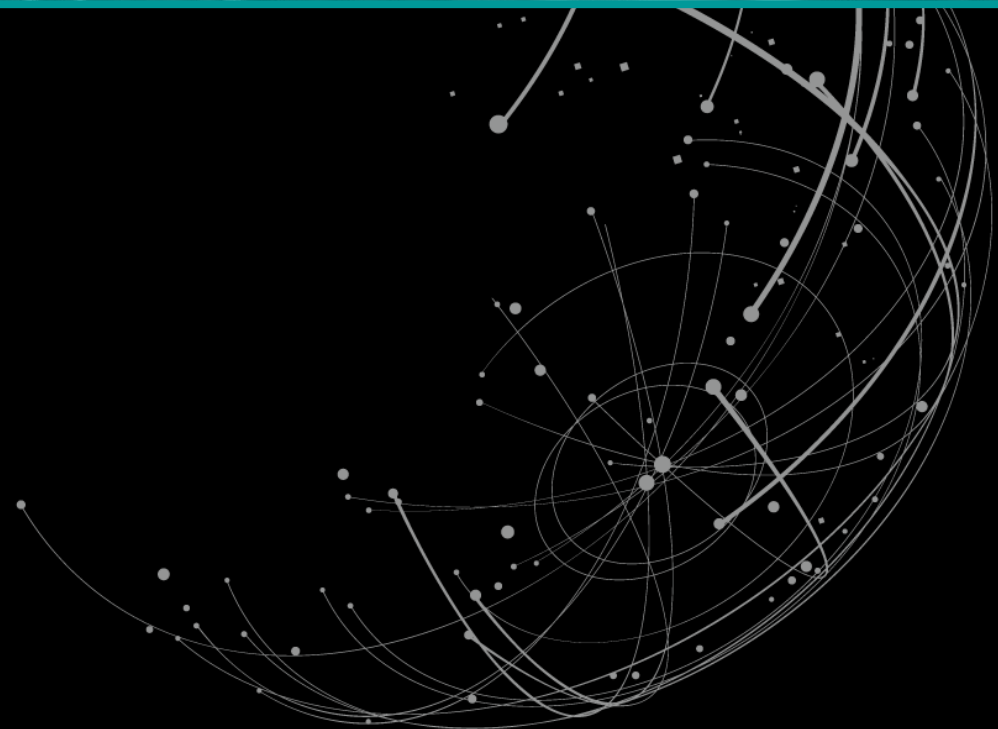
■ 産業機械 ■ 素形材・エンジニアリング ■ その他











事業概況



PART III



産業機械事業 主要製品の今期受注概況

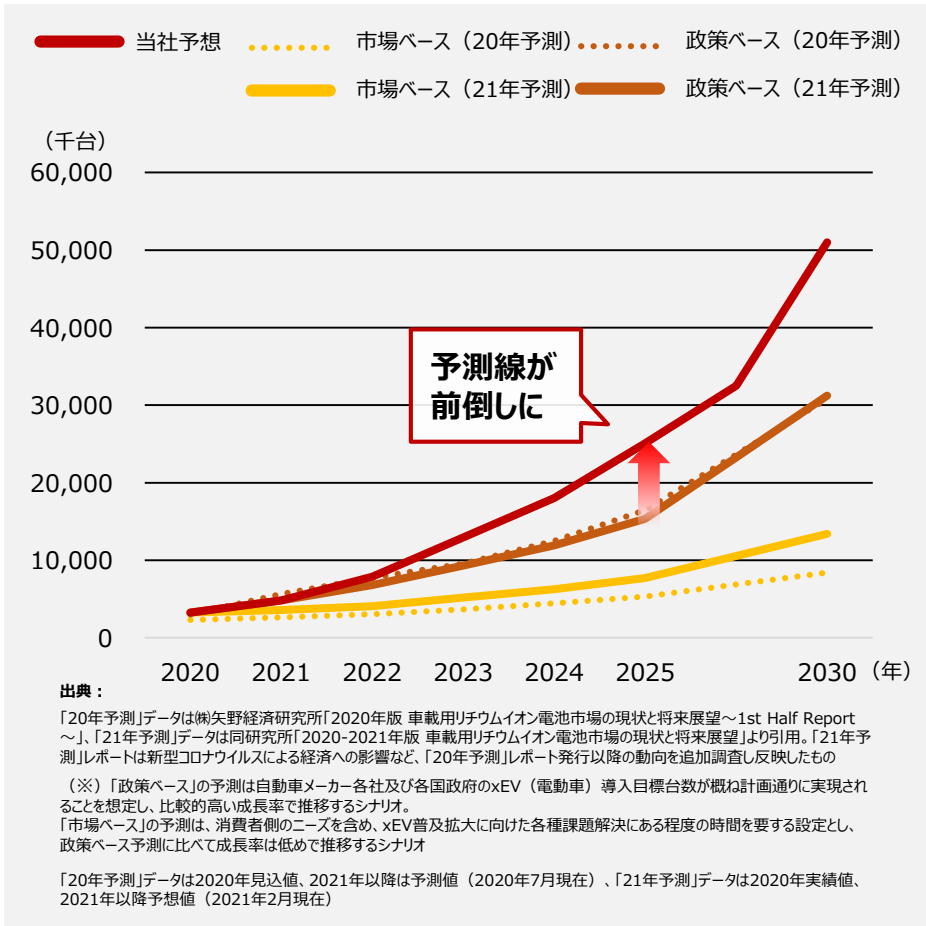
産業機械事業		景況感 (2021年5月 時点との対比)	受注環境
樹脂製造・ 加工機械	フィルム・シート製造装置		EV車増産等を背景に旺盛なインフラ投資が続き、フィルム・シート装置全般で市場は好調
	造粒機		中国で、環境評価基準の厳格化により各プロジェクトに遅れが出始めている
	二軸混練押出機		低迷していた市場は回復基調に
成形機	成形機		自動車減産等による部品メーカーの投資ズレの影響は一時的で、3Q以降は好調な市場が継続
その他	FPD装置		スマホ等の需要は回復しているが新規設備投資までには至らず、市場は未だ厳しい
全て	アフターサービス		回復基調にあるも、海外での感染再拡大の影響が懸念される

素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況

素形材・エンジニアリング事業	景況感 (2021年5月時点との対比)	受注環境
<p>鋳鍛鋼品</p>		<p>市場は回復基調、電力向け部材が好調</p>
<p>クラッド鋼板・鋼管</p>	<p>鋼板</p>  <p>鋼管</p> 	<p>鋼板：幅広い分野での需要が期待される 鋼管：天然ガスプロジェクトの延期・見直しで受注環境は最悪</p>
<p>エンジニアリング他</p>		<p>公共事業関連工事が期待される</p>

EV車生産加速が見込まれ、需要に追いつくため 車載用電池メーカーやセパレータフィルム製造メーカーが投資を急増

EV車（PHEV+EV）の生産台数予測



2025年迄の
セパレータ用フィルムシート装置受注予測

当初想定
30～35
ライン/年

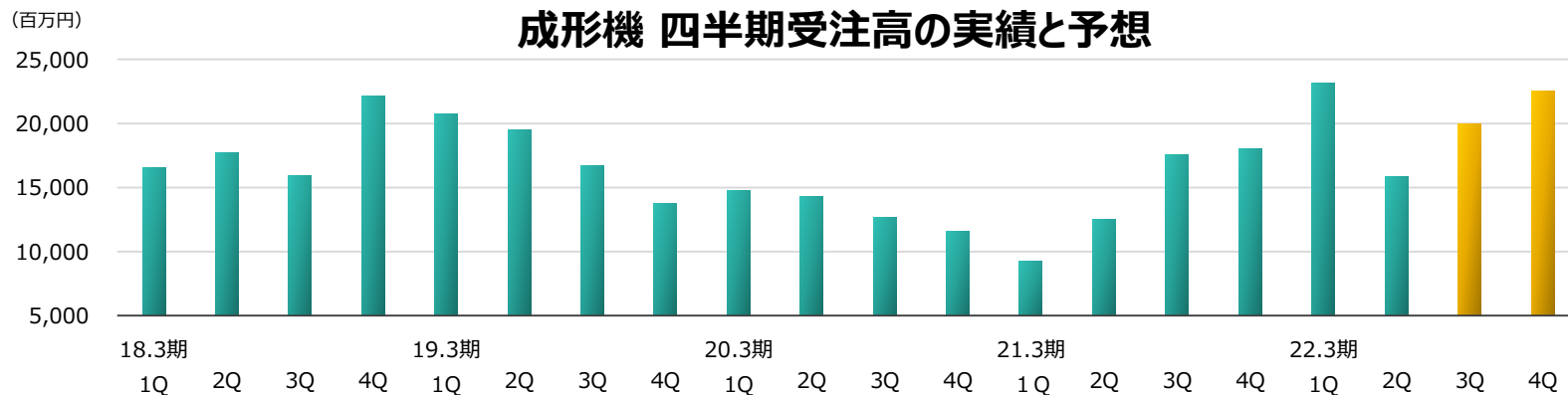
今回想定
50～60
ライン/年

当社の対応

早期に**60ライン**体制を構築



自動車等の減産の影響を受けた部品メーカーの設備投資ズレにより、22.3期2Qの受注は一時的に足踏みしたが、3Q以降は回復を見込む



欧州戦略

CO2削減の流れを受け、欧州市場で油圧式から電動式射出成形機への転換が急速に進みだした。

油圧式射出成形機



消費電力
従来の約7割減



電動式射出成形機



※型締力100tの当社射出成形機の場合

この機会を捉え、
欧州市場での拡販を狙う

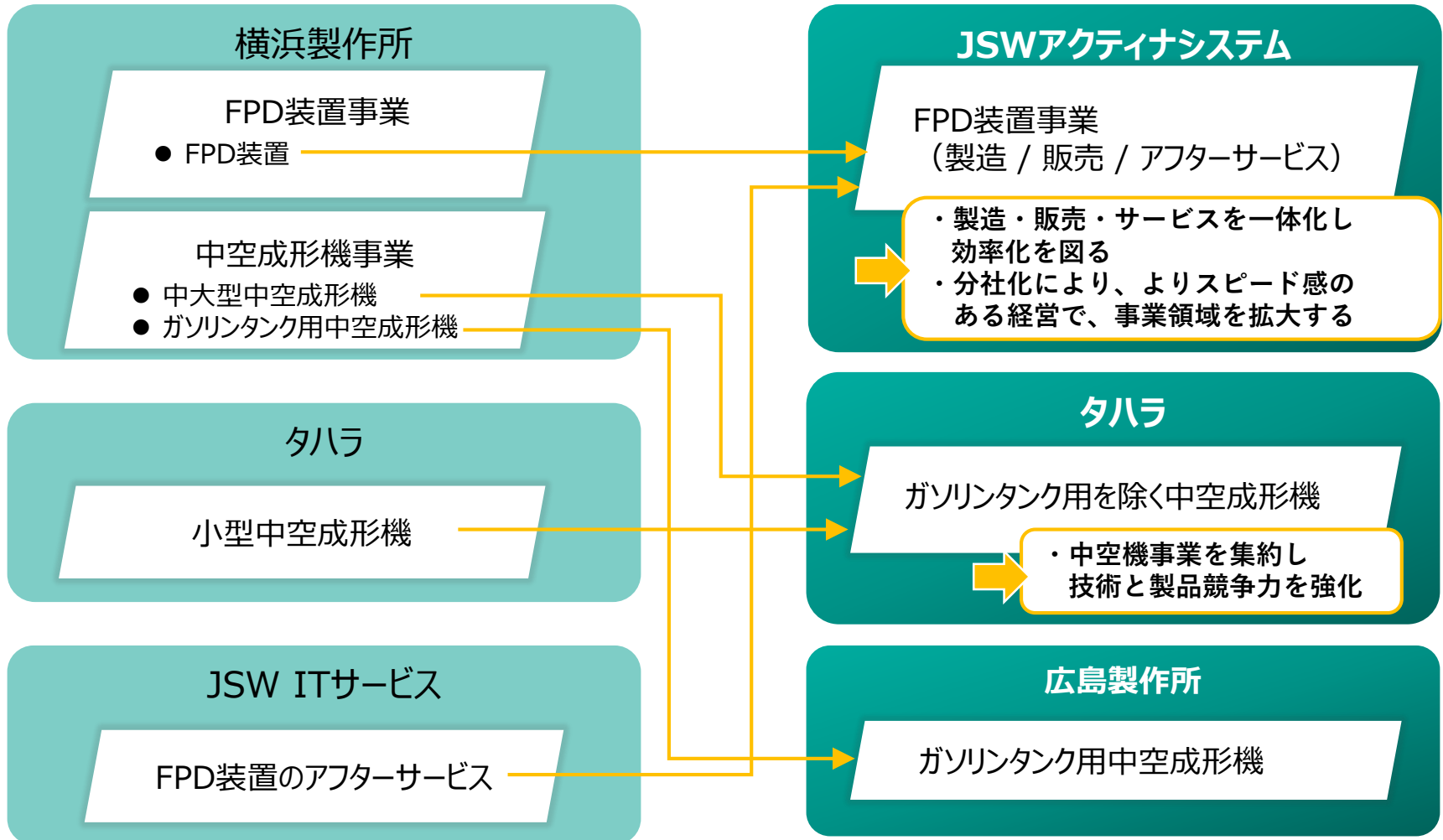
取り組み

- 欧州部品センター拡充
- 欧州での大型射出成形機生産を予定

FPD装置事業と中空成形機事業を効率化

これまで

これから



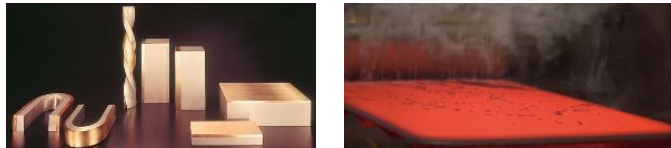
天然ガス輸送管を主としたクラッド鋼管事業を縮小し、クラッド鋼板事業に特化

クラッド鋼管市場は、天然ガス田開発プロジェクトの停滞により厳しい事業環境が続いていたところに新型コロナウイルス感染症の影響も受け、需要が大幅に減少した。

用途が限定的であるクラッド鋼管については、将来的に安定した事業運営は困難と判断し、事業縮小を決め、今後はクラッド鋼板の製造・販売に重点をおいた事業とする。

クラッド鋼板

1950年 クラッド鋼板生産開始



幅広い分野で需要が期待される

クラッド鋼板事業は適正規模で事業再構築

クラッド鋼管

1978年 クラッド鋼管事業へ参入
天然ガス輸送管用をメインに展開



年間数件の大口案件を競う市場であることから
需要の変動が大きく、安定した収益確保が困難

クラッド鋼管事業を縮小

余剰人員については日本製鋼所グループ全体で配置転換を進める





参考資料



事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業			素形材・エンジニアリング事業	その他事業				
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部			日本製鋼所M&E	新事業推進本部				
生産拠点	広島 	横浜 (JSWアクティナ) 	名古屋 	室蘭 					
製品	<p>【樹脂製造・加工機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> 造粒機 フィルム・シート製造装置 二軸混練押出機 アフターサービス  <p>【成形機】</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチック射出成形機 マグネシウム射出成形機 中空成形機 アフターサービス   <p>【その他産業機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> エキシマレーザーアニール(ELA)装置 防衛関連機器 鉄道製品 ホットプレス ラミネータ 成膜装置 アフターサービス 			<p>【鍛鋼品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 反応容器部材 (シェル、ヘッド他) 蒸気発生器部材 ローター軸 タービンケーシング 金型用鋼 製鉄用圧延ロール   <p>【クラッド製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラッド鋼板  <p>【エンジニアリングサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> プラント・インフラ鋼構造物及び工事 非破壊検査・分析検査サービス 水素蓄圧機・水素吸蔵合金タンク  	<p>【新事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> フォトニクス 複合材料 金属材料 				
市場	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	新事業

売上高・営業利益・純利益の推移

(単位：億円)

	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期 (予想)
売上高	2,233	2,124	2,129	2,201	2,175	1,980	2,260
産業機械事業	1,443	1,593	1,702	1,736	1,714	1,563	1,805
樹脂製造・加工機械	364	361	502	525	569	588	660
成形機	564	576	645	727	653	545	710
FPD装置	-	-	-	164	114	-	-
その他	326	468	370	204	225	430	435
連結会社	189	188	185	116	153	-	-
素形材・エンジニアリング事業	748	512	408	412	428	385	420
鋳鍛鋼品	-	-	-	-	196	199	255
電力・原子力	192	193	172	125	-	-	-
石油精製用圧力容器	14	17	10	-	-	-	-
クラッド鋼板・鋼管	393	135	70	130	128	105	65
エンジニアリング他	-	-	-	-	104	81	100
風力発電機	12	39	16	-	-	-	-
その他	69	53	55	95	-	-	-
連結会社	68	75	85	62	-	-	-
その他事業	40	18	17	52	46	31	35
営業利益	144	123	213	242	187	102	160
産業機械事業	124	151	238	235	192	139	188
素形材・エンジニアリング事業	7	△ 28	△ 15	26	24	18	12
その他事業	20	9	8	3	△ 1	0	1
純利益	△ 166	△ 49	107	199	93	68	110

※21.3期より、集計区分を変更（20.3期より組み替えて表示しています）。

- ・「産業機械事業」の「連結会社」としていた3社（ジーエムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社）を「樹脂製造・加工機械」に変更。
- ・「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。
- ・「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうち石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうち風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

(単位：億円)

	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期
総資産	2,931	2,753	2,974	3,055	2,971	3,162
純資産	1,113	1,075	1,186	1,298	1,324	1,419
1株あたり純資産額 (円) ※17.3期以降は株式併合後	299.41	1,446.44	1,592.47	1,746.91	1,778.94	1,908.76
自己資本比率 (%)	37.5	38.6	39.3	42.0	44.0	44.4
自己資本利益率 (%)	△13.5	△4.6	9.6	16.3	7.2	5.1
営業活動によるキャッシュフロー	197	120	267	11	189	147
投資活動によるキャッシュフロー	△121	△135	△50	△13	△131	△32
財務活動によるキャッシュフロー	47	△12	△24	△37	△61	27
現金及び現金同等物の期末残高	614	586	778	738	744	887

日本製鋼所企業行動基準（2018年4月1日 改正）

日本製鋼所グループは、持続可能な社会の実現を目指す企業として、次の10原則に基づき、国の内外において、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図るために、イノベーションを通じて、社会に有用で安全性に配慮した製品・技術・サービスを開発・提供する。
2. 公正かつ自由な競争に基づく適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政とは健全な関係を維持する。
3. 企業価値向上のため、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を行う。
4. 全ての人々の人権を尊重する。
5. 市場や顧客のニーズを製品・技術・サービスに反映した上で、顧客からの問い合わせ等に速やかに対応することにより、社会と顧客の満足と信頼を獲得する。
6. 従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、良好な職場環境を確保する。
7. 環境問題への取り込みは企業としての重要な責務であることを認識し、主体的に活動する。
8. 企業市民として、社会に参画し、その発展に貢献する。
9. 市民社会や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に対して、組織的な危機管理を徹底する。
10. 経営トップは、この行動基準の精神の実現が自らの役割であることを認識し、実効あるガバナンスを構築した上で、当社および関連会社に周知徹底を図り、あわせてサプライチェーンにも本行動基準の精神に基づく行動を促す。また、本行動基準の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。

JSW

THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.

